

「精神保健福祉士の実践～OB・OGに学ぶ」を開催して（社大福祉フォーラム2013報告）（自主企画分科会）

著者	古屋 龍太
雑誌名	社会事業研究
号	53
ページ	83-83
発行年	2014-02
URL	http://id.nii.ac.jp/1137/00000282/



精神保健福祉士の実践

「精神保健福祉士の実践～OB・OGに学ぶ」を開催して

日本社会事業大学社会福祉学部
精神保健福祉士課程主任代行
准教授 古屋 龍太

第52回学内学会に合わせて「精神保健福祉士の実践～OB・OGに学ぶ」を開催させて頂いた。前年度の第51回学内学会で初めての試みとして開催し、本学の精神保健福祉士（PSW）課程の卒業生・現役学生・院生が集うホームカミングディとして位置づけようとする企画である。卒業し様々な実践現場で活躍しているPSWと共に、参加者が体験を交流し、実践上の課題を探ろうとするものである。前回は60名程度、今回は40名程度の参加者を得て開催されたが、参加者の多くを占めるのは、未だPSWの現場を知らない学部生たちであった。「現場の話を知りたい」「PSWの仕事を知りたい」という要求が高かったと思われる。

全体進行は古屋が担い、まず参加者のうちからPSWとして現職で働いている方々に前に出て頂き、それぞれの自職場紹介と実務内容を語って頂いた。業務内容が重複する方同士（例えば精神科病院のPSW、就労継続・就労移行支援事業所のPSW等）は同じグループにし、全体を五つにグルーピングした。実務未体験の学生には、それぞれ関心のあるグループに自由に参加し、先輩であるPSWに素朴な質問を投げかけることを求めた。現職PSWの参加者は、それらの質問に答える形で、それぞれの職場におけるPSWの業務内容、相談支援の視点とアプローチ、精神保健福祉分野に固有の課題等について真摯に応えて頂いた。グループによっては就職活動のポイントなどもアド

バイスして頂いていた。最後に、各グループから学生に質疑内容の報告をしてもらい、出席した精神保健福祉士課程の専任教員（添田・大山・賛川）からコメントすることにより現状の課題を全体で共有し、2時間のセッションを終えた。

前回（2012年度）は、長期在院精神障害者の地域移行支援を中心とした精神科病院の取り組みが多く参加者の関心を集めていたが、今回は地域の支援機関で就労継続・就労移行支援事業に取り組むPSWのグループが最も参加者が多かった。また、保健所等の行政機関の公務員PSWを囲むグループでは、治療を拒む精神障害を有する方への地域での危機介入や移送制度、心神喪失者等医療観察法の運用にまで話が及び、当事者の自己決定の尊重を原理に掲げながらも法令に順じた業務を遂行するPSWの実務について、真剣な質疑が展開された。

本学の精神保健福祉士課程では、このセッションや実習報告会（年4日）以外にも、学部生を中心とした「精神保健福祉士課程勉強会」（年1回）や通信教育科生を中心とした「社大精神保健福祉士課程フォーラム（S-PSフォーラム）」（年2回）などが開催されており、卒業生や研究大学院・専門職大学院生も含めた交流が積み重ねられている。特に「S-PSフォーラム」は、卒業生らの常設実行委員会をベースに、午前中の講演、午後の5～6分科会、夕刻以降の懇親会と一日がかりで行う大規模なものであり、参加者も多い（80～120名）。今後はこれらの企画との調整、目的と標的集団の整理等を行い、社大で学んだPSWたちの経験交流と実践省察、現場変革を積極的に推進するようなキャリア形成モデルを構築していければと考えている。